

木

KINO PRESS
NO.40

野

京都精華大学
KYOTO
SEIKA
UNIVERSITY

通

木野通信 第40号 2005年8月8日発行
京都精華大学企画室
〒606-8588
京都市左京区岩倉木野町137
TEL. 075-702-5201

信

学部として独立するデザインとマンガ

学長 ◎ 中尾ハジメ NAKAO Hajime

昨年は人文学部で、教育方法の工夫と社会貢献が文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」によって優れた取組み（通称「特色G.P.」）として採択されましたが、この七月には、芸術学部での「学外実習」や「伝統美術工芸講座」の取組みが「特色G.P.」に採択されました。ひとつの大学が二年連続で選ばれることはきわめて稀なことですが、これもまた京都精華大学の実力の一端です。

二年制の短期大学美術科から美術学部（現在の芸術学部）に生まれ変わったのは、二六年まえ、一九七九年のことでした。都市部での大学設置にたいする規制が厳しくなる時期に重なり、この四年制への発展的改組は大学にとってたいへん困難な仕事でした。その苦難を乗り越えて出発することのできた美術学部は、それからわずか十年あまりの期間で、京都のみならず関西でトップの実力があると、

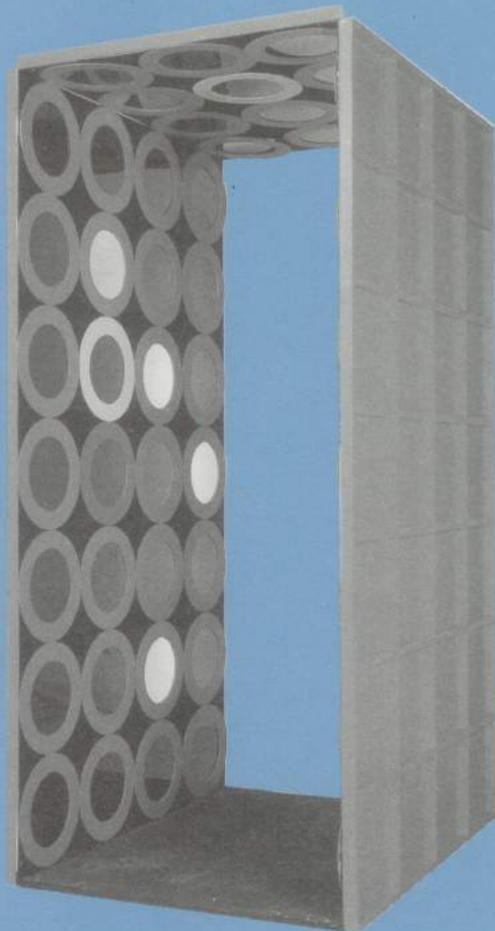
内外から評価されるようになります。

伝統美術工芸の宝庫である京都の街から必要とされる大学を目指して計画された「学外実習」と「伝統美術工芸講座」は、その美術学部発足のときから今日まで、四半世紀をこえ実施されてきた教育プログラムであることは言うまでもありません。現実の社会から必要とされる大学であるということは、そのような大学の教育課程に参加する、ほかならぬ学生諸君が現実の社会への責任意識を強くもち、それゆえに自らの感性と向上心を高めることを意味していました。

社会そのものの大きな転換期にある今日、大学教育の改革を旗印とする私たちの大学がつねに時代の先駆けであることを示せるよう、このような現実社会との連携をさらに強めなければなりません。来

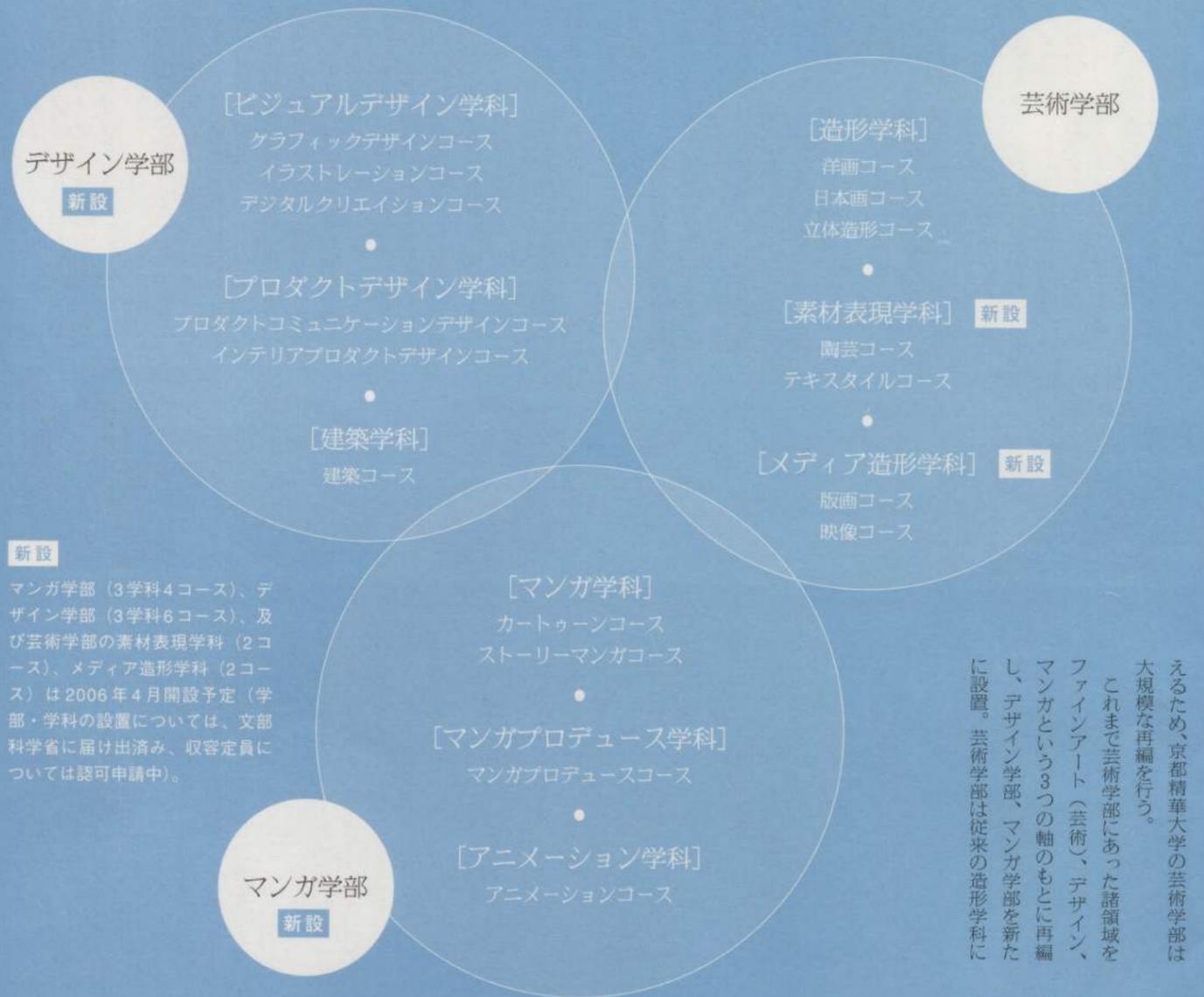
年の春から現実となるデザイン領域とマンガ領域の学部としての独立には、それぞれの教育領域が独自性を発揮し大学の社会との連携をさらに際立たせるといねらいがあります。

日常にも社会経営にも密接不可分なデザインは、もとよりの芸術分野から独立した動きをもつ領域ですが、デザイン学部として独立することによって、産業界との柔軟で、きわめて有機的な連携をはかる計画です。マンガがづくり出している現実の文化、そして社会については言うまでもないでしょうが、その独自性と可能性をさらに広い世界で実現させていくマンガ学部は、文字とおり先端的な大学教育の挑戦です。いずれも京都精華大学の将来性を決定づける学部計画ですが、大学へのこれまでの評価を維持し、さらに新たな評価軸を創出することができるよう、心から願っています。



2006年4月デザイン学部・マンガ学部開設、芸術学部再編

設置届出済・収容定員増申請中



新設

マンガ学部 (3学科4コース)、デザイン学部 (3学科6コース)、及び芸術学部の素材表現学科 (2コース)、メディア造形学科 (2コース) は2006年4月開設予定 (学部・学科の設置については、文部科学省に届け出済み、収容定員については認可申請中)。

Topics 施設面からも新体制をバックアップ 新校舎建設計画

2005年5月、新学部編成にともなう新校舎建設にも着手した。現在建設中の新実習棟は旧1号館と3号館の跡地に建つ。完成は2006年3月を予定。建物の概要は、鉄筋コンクリート (一部鉄骨) 造5階建て、建設面積は1,256平方メートル、延床面積は5982平方メートル。本実習棟建設後は2号館を解体し、第二の新校舎建設が計画されている。

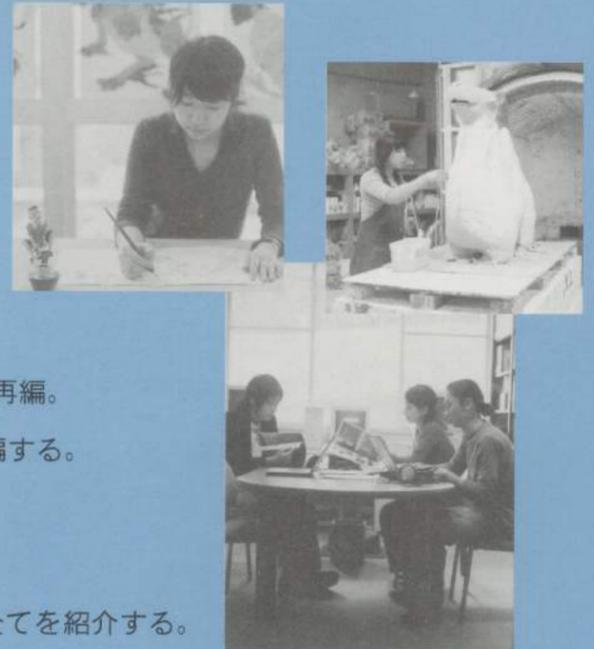


新設にともなう入学定員増員にしたがい、全学の収容定員は2009年にはおよそ4500名の学生数を見込んでいる。

大きな変化を迎え、複雑化を続ける現代社会において新たな価値観を創造し、豊かな暮らしを提案するために芸術もまた、大きな使命を担っている。今日さらなる変革を求められる芸術表現に応えるべく、2006年春、京都精華大学が大きく変わる。

これまで芸術学部に含まれていた芸術諸領域をファインアート、デザイン、マンガという3つの軸のもとに再編。デザイン学部、マンガ学部を新たに設置し、芸術学部を再編する。これによって各領域は専門性を深め、最大限に特色を発揮することができるようになる。

未来の表現者たちの育つ場として新たに誕生する3学部の全てを紹介する。



時代と社会が求める 芸術表現探求の場として

本学の芸術学部は、自己表現に主軸を置くファインアート領域の造形学科、社会や暮らしとの繋がりのなかで表現を追求するデザイン学科、近年社会にもっとも大きな影響力を持つ表現分野として注目を集め、その潜在力が期待されるマンガ学科で構成されてきた。同学部ではこれまでも、芸術領域の多様化と、社会の求める人材像に対応するため、カリキュラムを含むさまざまな教学上の工夫が試みられてきた。

しかし、近年デザインとマンガの領域では、高等教育機関に求められる教養内容が世界規模で変化している。デザインでは、豊かな市民生活と社会の実現のため、効果的に作用する方法と人材が望まれ、マンガでは世界中の人気を集めるマンガ表現の解明と新たな表現の創出、人材育成が求められている。そして、同じく急速に進化しつつあるファインアート分野が、より時代に即した教学上の変革を求められていることは言うまでもない。このように芸術表現の領域では、その方針、教育手法、卒業生の進路などがきわめて多様化しており、これまでのように芸術諸領域として一学部で統合したままでは、各領域の専門性を高め、特色ある運営を実施することが困難と判断した。

転換期のただ中にある社会において今、芸術表現を通して何を伝えることができるのか。多様化をきわめ、拡大を続ける現代の芸術表現にいち早く応

すべての表現分野を 網羅する17コース編成

デザイン学部、マンガ学部、素材表現学科、メディア造形学科新設は、2006年4月の開設を目指し、文部科学省に設置届出済 (定員は申請中、2005年8月現在)。デザイン学部は、現在の芸術学部デザイン学科のビジュアルコミュニケーションデザイン分野、プロダクトコミュニケーション分野、建築分野がそれぞれ学科として独立し3学科、6コース編成でスタートする。マンガ学部には、マンガ学科に加え、新たにアニメーション学科とマンガプロデュース学科が誕生、3学科、4コース編成に。また、これに伴い芸術学部は従来の学部編成を一新し、素材表現学科、メディア造形学科を新設、造形、素材表現、メディア造形の3学科、全7コースに再編される予定である。

学部新設にともない 定員も増加

2006年度の入学生定員は、芸術学部240名、デザイン学部208名、マンガ学部200名の計648名を予定している。これは前年度に比べておよそ300名の増員となる。この学部

造形学科

幅広く柔軟なカリキュラムと教員や友人との対話を通して、技術だけでなく表現を支える精神の基本や思考力をきたえていく。

【洋画コース】総合的な見地から美術にアプローチし、絵を描く力に加え、深い視点で美術を読み解く力を身につける。油絵からパフォーミングまであらゆる手法を体験できるバラエティ豊かな実習科目に加え、講義系科目も充実。幅広い学びを通して表現力を養う。

【日本画コース】自然や自己に向かう姿勢を重視。ものの見方、考え方や生き方の構築をもっとも大切な学びと位置付けている。緑豊かなキャンパスの中、ゆったりとしたペースで取り組む「写生」、多様な表現技法をしっかり学べる授業などを通じて、表現の枠を拡げていく。

【立体造形コース】ジャンルを超えた三次元アートを追求。実習では、ものを作る楽しさを体験しながら空間・環境に対する感覚を高めていく。様々な素材をあやつり、自らのイメージを形にするために必要な技術を幅広く習得し、より先進的な表現を目指していく。

素材表現学科

たしかな技法・技術を養うだけでなく、素材そのものの可能性を探求。アートやデザインの枠にとられず新たな表現の発見をめざす。

【陶芸コース】工芸、アートといったカテゴリーにとられず、土という素材でどんな世界が築けるかを追求する。実習では伝統的手法から現代美術まで陶芸表現の全てを体験できるだけでなく、さまざまな素材に触れ、自分だけの創作スタイルを確立していく。

【テキスタイルコース】伝統から先進的な技術まで、多様な技法を徹底して習得することを重視。たしかな造形力を身につけ、アートとデザインの枠を超えた自由なテキスタイル表現を追求する。芸術家としても、デザイナーとしても様々な分野で表現力を活かすことができる。

メディア造形学科

静止画から動画像まで「メディア」を駆使した芸術を多角的に追求。さまざまなジャンルに通用する幅広い技術と表現力を身につける。

【版画コース】木版、銅版、リトグラフ、シルクスクリーンなど版画の「基本4版種」の技術を全て基礎から学ぶ。また、一般的な技法だけでなく写真表現、ポリマー版画、CGなどにも触れ、多様で先進的なメディア表現に触れることのできる環境が用意されている。

【映像コース】軸に据えるのは、メディアテクノロジーとアートの融合による「メディアアート」表現。先駆的な表現技法の実践を通して、既成概念を打ち破る発想力を獲得する。様々な分野で活用できるビデオ編集、CG、アニメーション制作などのスキルも身につける。

ビジュアルデザイン学科

拡大するビジュアルデザインの領域に対応する3つのコースを設定。

【グラフィックデザインコース】ポスターや雑誌などの広告、ロゴタイプやロゴマーク、書籍の装丁や編集、Webなど、グラフィックデザインの持つ幅広い領域に対応できるカリキュラムを用意。「文字」と「図」を表現の基礎要素とし、その融合または分離をコンセプトに、現場で通用する実践力を身につける。

【イラストレーションコース】挿し絵としてのイラストレーションだけではなく、あらゆる視覚メディアを横断するコンテンツを創造するイラストレーターやアーティストを育成する。雑誌、CMなどの広告メディアのイラストから、絵本、キャラクター制作、ビジュアルアートなどのクリエイティブワークまで、学生一人ひとりの個性を引き出すことを重視する。

【デジタルクリエイションコース】コンピュータを駆使してキャラクターや映像、モーショングラフィックスなどの作品を制作し、コンテンツビジネスの可能性を最大限に生かすための発想力と行動力を身につける。映像・音楽・ゲーム・出版などの分野を越えて、アートとしての先鋭さとエンタテインメントとしての広がりを持つ新しい表現を追求する。

プロダクトデザイン学科

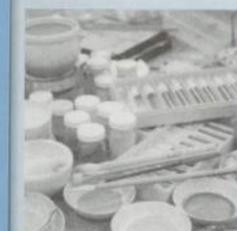
モノ・情報・空間を融合し、生活を豊かにするプロダクトデザインを学ぶ。

【プロダクトコミュニケーション(PCCD)コース】朝目覚めてから夜眠るまでの間に手に触れるすべてのモノを対象に、社会のニーズを把握した現実に役立つデザインを学ぶ。人とモノとの観察、コミュニケーションから生まれた、「気づき」をもとに発想力と提案力を鍛え、造形美と機能性をあわせ持ったモノをデザインする力を身につける。

【インテリアプロダクトデザイン(IPD)コース】家具のデザインだけではなく、住宅設備や内装デザイン、スペースデザインも学びの対象とし、暮らしそのものを提案する力をつけていく。人・モノ・空間の関係性を追究し、オリジナルのデザインを発見していくプロセスを重視。空間と調和したインテリアを創造するデザイナーを育成する。

建築学科

【建築コース】建築をはじめ、人の体と意識に関わるモノと空間のデザインを追求する。住まいや都市、仮想空間やファッションまで、空間の全てを知り、形を自在につくり出すプロフェッショナルを育成する。教員が持つスタジオに、弟子入りするマエストロシステムや、学外からも著名な建築家や専門家を招いて行なわれる合評会、海外の建築大学との交流など、多彩な独自のプログラムを用意している。



芸術学部

創造表現をより深く探求する
新体制へ再編

新設

- メディア造形学科
 - 版画
 - 映像
- 素材表現学科
 - 陶芸
 - テキスタイル
- 造形学科
 - 洋画
 - 日本画
 - 立体造形



デザイン学部

デザインの現場に直結した
教育プログラムを実現

新設

- 建築学科
 - 建築
- プロダクトデザイン学科
 - プロダクト
 - コミュニケーションデザイン
 - インテリア
 - プロダクトデザイン
- ビジュアルデザイン学科
 - グラフィックデザイン
 - イラストレーション
 - デジタルクリエイション

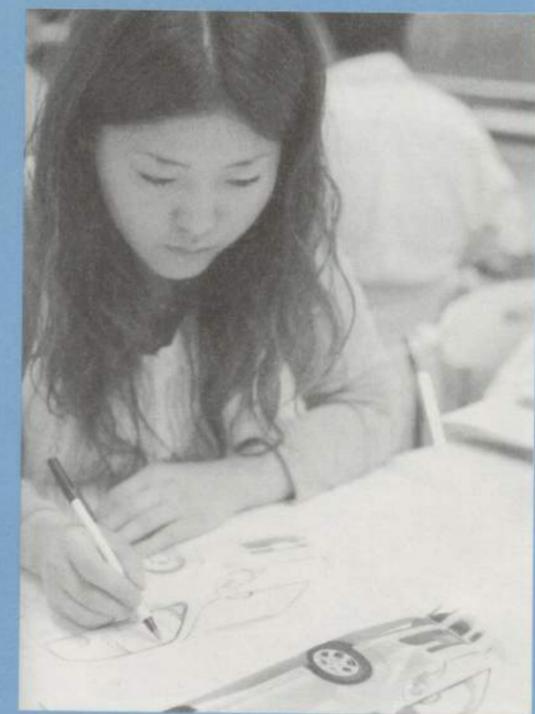
2006年度 芸術学部・デザイン学部・マンガ学部 入試日程(予定)

■試験日程

試験種別	出願期間・試験日
公募制推薦入試	出願期間：2005年10月19日(水)～11月2日(水) 試験日：2005年11月11日(金)・12日(土)・13日(日)
一般1期入試	出願期間：2006年1月6日(金)～1月24日(火) 試験日：2006年2月3日(金)・4日(土)・5日(日)
一般2期入試	出願期間：2006年2月14日(火)～2月25日(土) 試験日：2006年3月5日(日)・6日(月)

- 試験について
- ・試験はコース単位での実施となります。
 - ・試験日程、試験時間が同一でない限り、学部・学科・コースを問わずに併願が可能です。
 - ・他大学との併願も可能です。

新学部設立にともない、昨年から科目や併願のシステムが変更しております。
詳しい試験内容につきましては、「入試要項(案)」をおとり寄せてください。
問合せ先：入試課 0120-075017



【マンガ学科】マンガを「描く」力を養成。高度な技術と、人の心をつかむ作品に欠かせないものの見方や感性を磨き、自己の作品世界を確立していく。

【カートゥーンコース】「風刺」「笑い」「誇張」を原則とした一枚もののユーモア絵画に挑む。徹底的に画力を高めるための基礎訓練、カートゥーンに不可欠な鋭い観察力と発想力をほぐくむカリキュラムを用意。カートゥーンの先駆的拠点として、世界との連携も強い。

【ストーリーマンガコース】現在もコミック誌上で活躍中のマンガ家の下で作画技術を徹底的に鍛え、読者の心をつかむ表現とは何かを学ぶ。プロのマンガ家に必要な社会性を高めることも重視し、実社会と連携したプログラムも用意。発注者や読み手への意識を高めていく。

■マンガプロデュース学科

【マンガプロデュースコース】現代とくに需要が高まっているマンガの編集、原作、批評の領域に注目。「描く」以外の領域でマンガ作品をプロデュースする力を技術と知識の両面から高めていく。プロの編集者や原作者による実務体験型の授業や、マンガ学科との連携でコミック誌を制作するなど実践を重視したユニークな授業が展開する。

■アニメーション学科

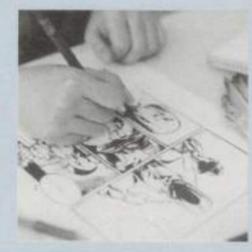
【アニメーションコース】アニメーション表現を原理的・体系的に学ぶ。アニメーション表現の根本にある「動き」とは何かを追求する学びを基本に据え、原理を深く理解することでより豊かな表現を獲得する。手描きからデジタル、音響まで、幅広い表現技法を習得できる科目に加え、充実した理論系講義も用意される。日本のアニメーション文化の芸術性と豊かな世界観を継承し、新境地を切り拓く場となることを目指す。

新設

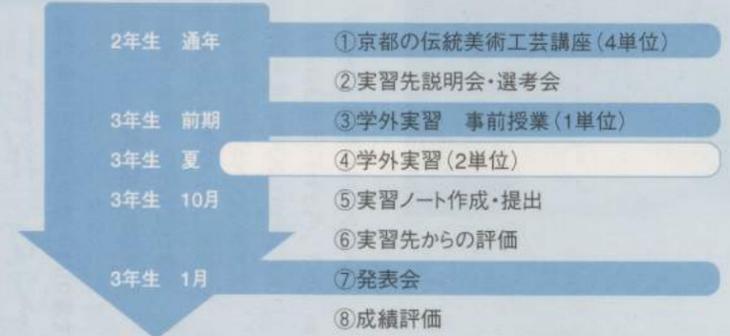
マンガ学部

マンガ、アニメーションを体系的・総合的に学ぶ

- マンガ学科
 - カートゥーン
 - ストーリーマンガ
- マンガプロデュース学科
 - マンガプロデュース
- アニメーション学科
 - アニメーション



「学外実習」と「京の伝統美術工芸講座」が配置された履修プロセス



▲学外実習の記録・報告書【実習ノート】より

京都の伝統文化を教育内容に取り込んだ地域交流型のプログラム

「特色G.P.」に採択された教育取組の骨格である「学外実習」と「京都の伝統美術工芸講座」は芸術学部の最も特色ある教育実践の一つとして開設以来25年間継続して実施されてきた。大学が立地する京都の伝統文化を効果的に教育に取り込み、学生たちが地域の伝統産業への見識を深め、自らの創作の糧にすること、社会的な視点をも身につけ、人間として成長すること、伝統文化を理解し発展させる人材の育成を目的としている。

「学外実習」は、3年次の夏期におよそ2週間、伝統産業の工房に通い、体験的に学習する制度。西陣織、組紐、竹工芸、漆芸、京造園など京都ならではの多彩な実習先が用意される。現在の実習先の工房・企業は37を数え、実習を経験した学生数は1200名を越える実績を持つ。実社会での制作を体験した学生からは伝統工芸・産業における仕事の水準の高さに驚き、かつ大学では味わえない体験を得ることができたとの感想が聞かれる。実際、この実習がき

文部科学省「特色G.P.」に2年連続で採択

文部科学省が全国の大学・短大のすぐれた教育取組を選定し、支援する2005年度の「特色ある大学教育支援プログラム」に、京都精華大学の教育取組が昨年度に引きつづき、今年度も採択された。総申請件数410件のうち採択は47件。2年連続の採択校はわずか5件となった。



文部科学省が03年度に開始した組織的な教育改革の奨励事業

全国の大学教育の模範となる教育取組を選定・支援

2005年7月、京都精華大学の教育取組が、文部科学省の2005(平成17)年度「特色ある大学教育支援プログラム(通称「特色G.P.」)」に採択された。

「特色G.P.」とは同省が2003年度に開始した、教育改革の奨励事業。全国の国公私立大学のすぐれた教育事例を選定・支援し、広く社会に情報提供を行っている。全国の大学・短大が教育の実践例を特性に応じた5つの募集テーマへ応募申請し、「教育の効果を示す根拠は十分か」「他大学の短大の参考になるか」などの観点で審査される。

本学は「主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ」に、「伝統産業を軸とした地域連携の実践」を申請し、同分野に申請した70件の中から採択された(採択件数7件、採択率10%)。応募総数は全国の国公私立大より410件。うち91件がヒアリングにすすみ、47件が採択された。

2005年度「特色ある大学教育支援プログラム」

京都精華大学の取組の採択理由

この取組は、京都精華大学の教育理念である「体験主義」「学際主義」を通じた「自立した人間の形成」を実現するために、25年にわたって組織的に実施され、京都伝統文化の継承や発展、活性化と人材育成に大きな成果をあげています。

地域に根ざした大学として、現代の伝統産業が抱える問題点を学生に理解させ、現場の中で伝統文化の創造的発展に貢献させようとするこの取組は、地域貢献を超えて、大学と地域とが教育連携の中で有機的に結合しようとする優れた取組であると認められます。

今後ますます大学教育が大学外での学習機会を重視し、その成果を教育プログラムに取り込んでいかなければならない現状を考えた場合、この取組は他の大学、短期大学の参考になりうる優れた事例であると言えます。

実習期間や実習学生数の面で課題も認められますが、受入工房が総じて小規模であることを考えると限界があり、むしろ困難をのりこえて25年間継続していることに有意義な点があると言えます。

(財) 大学基準協会ホームページより

っかけとなって伝統工芸の道に進む者もあり、現在多数の卒業生が町なかの工房に就職している。

「京都の伝統美術工芸講座」は、学外実習の事前準備として2年次に開設される。各回ごとに異なる伝統産業の専門家や学外実習工房の代表者を招いての講演が行われ、学生たちがさまざまな知識を得て、次年度の実習への意欲を高めるものとなっている。この授業は公開講座として、広く学外にも開かれている。

これらの科目はゼミ学習、発表会などを含めた多段階にわたる学習過程の中に配置され、体系的に学べる配慮がされている。また、実習体験の教育効果がより高められるように、担当教員の密接な指導のもと、事前計画や検証が行われている。

大学・地域社会連携の新展開をめざした将来展望

伝統産業を継承し発展させていくために、本プロジェクトは今後も発展を続ける。今年度以降は、口伝と体得に近い伝統的な職人の世界を継承しつつ発展させていくために、工房や企業の歴史や技術をデジタルで記録する計画もある。この編さん作業では、本学が開設している映像メディア研究所、情報館・メディアセンターと連携し、京都の伝統工芸・産業を教育・研究資源として位置づけ、取りまとめた成果を広く学外に向かって情報発信していく予定だ。また、各工房から寄贈を受けた貴重な資料や情報を公開し、より一層体系的な資料収集を行うための「資料館」の開設や、工房・企業と連携した調査研究体制の確立なども目標としている。



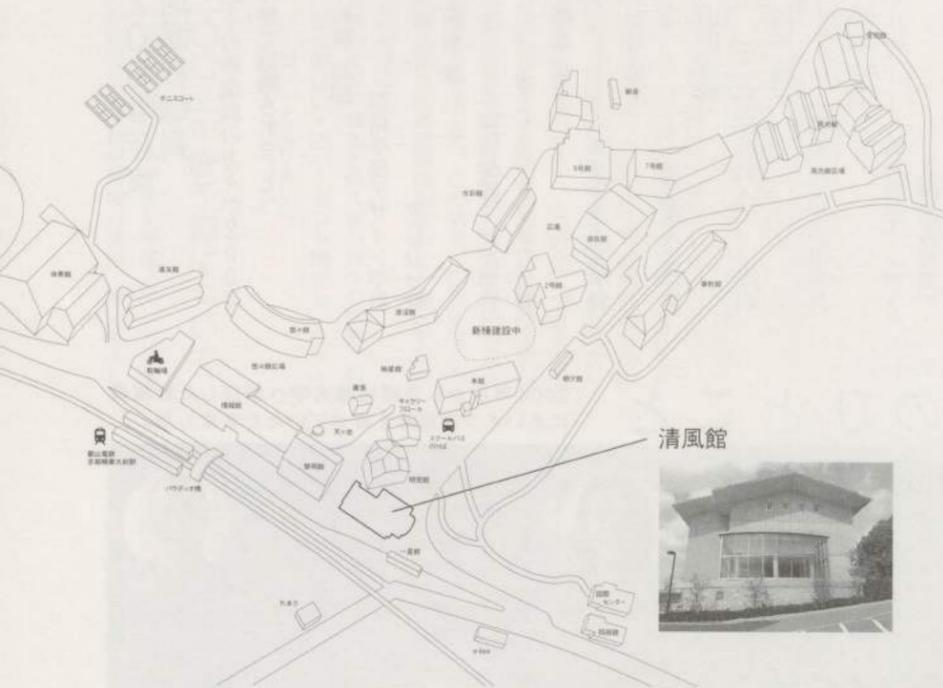
■2005年度「学外実習」実習先より(抜粋・予定)

有限会社藤三郎組(草木染組)／株式会社川島織物(織物)／株式会社栗山工務(紅型染)／澤村陶器工房(清水焼)／清水人形・高橋穀子氏(京人形)／竹美齋・石田正一氏(竹工芸)／株式会社川人象嵌(京象嵌)／佐藤木版工房(木版)／株式会社唐長(京唐紙)／好講社工房(漆工芸)／楠治(京造園)／株式会社森本鋳金具製作所(京金具)／伊藤裕司漆芸アトリエ(漆工芸)／染司よしお(染色)／細見織工房(織り)／株式会社松榮堂(香)／竹中浩工房(竹中浩氏)／株式会社岩野平三郎製紙所(越前和紙)／有限会社山喜製紙所(越前和紙)／株式会社さわの道玄(文化財修復)／宮崎木材工業株式会社(木工)／株式会社雅堂(木版)

■2005年度

「京都の伝統美術工芸」講座日程

「京菓子のいろ」山口富藏氏(株)末富取締役社長／「祇園祭と渡来染織品について」吉田孝次郎氏(祇園祭山鉾連合会副理事長)／「截金について」江里佐代子氏(截金作家(人間国宝))／「京の町家」丁寧事務局長(小島富江氏(京町家再生研究会事務局))／「輝けるきもの美」田畑喜八氏(日本染織作家協会理事長)／「日本の伝統色と京都の風土」吉岡幸雄氏(天然染料染色家)／「佛像彫刻」江里康恵氏(佛像彫刻家)



NEWS 新校舎「清風館」が完成

人文学部のゼミや少人数の授業を中心に使用

昨年春に着工し、建設を進めてきた明窓館横の新校舎「清風館」が完成し、4月から授業で使用されている。清風館は、半地下1階と地上3階からなる4階建て鉄筋コンクリート構造で、西に並ぶ黎明館に準じた形状。壁面には初代学長・岡本清一の言葉「大学は学問と教育と深い友情とを発見する場所である」と記されたフレイトが設置されている。

30名収容の小講義室12室、1000名収容の講義室6室などで構成され、全館にワイヤレスネットワーク環境、講義室には音響・映像設備が整備。さまざまな授業に対応できる設計になっている。人文学部のゼミや少人数での授業を中心に、大学での自立学習をサポートする学習支援ルーム、レポートや論文を執筆できる自習スペースも設けられ、活気が溢れる空間となっている。

NEWS 2005年度大学人事体制

2005年度の大学役職者は以下のとおり。

- 学長 中尾ハジメ
- 芸術学部長 佐川晃司
- 人文学部長 鷲尾圭司
- 大学院芸術研究科長 新井清一
- 大学院人文研究科長 中島勝住
- 教務部長 高橋伸一
- 情報館長 島本 侑
- 学生部長 小西通博
- 入学部長 梶川よ志子
- 就職部長 牧弥太郎
- 国際交流室長 小松敏宏
- 学長室長 大坪一幸
- 表現研究機構長 石川九楊
- 表現研究機構研究事業部長 上田修三

NEWS 『自由自治』の石碑建立

建学理念の言葉を刻んだ石碑が卒業生らによって設置

「自由自治」は、近代精神の真髄を言いつらわした言葉である。自由自治の精神は庶民の精神である。庶民が求め、庶民の力によって形成される精神である。われわれの大学は庶民の大学であらうとする。(中略) いつか、みんなの協力によって、この四文字が石に刻まれて校庭に立てられる日が来るであろう。(岡本清一/1968年度履修要項より)



施設整備および教育研究事業充実に関する募金についてお願い

施設の充実、教育研究の発展にかかる経費のご寄付ご協力をお願いいたします。寄付金は一口五万円からとなっております。詳細につきましては「募金要項」をお取り寄せてください。この寄付金につきましては、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けていますので、所得から税金控除を受けることができます。募金に関するお問合せや募金要項のお取り寄せは、京都精華大学企画室(075-702-5201)までお願いいたします。

初代学長・岡本清一は、大学創立のための基本方針を起草し、そのなかで『自由自治』を建学理念の中核として表現している。京都精華大学の中に深く宿っているこの精神を、後輩へと引き継いでいくために、同窓会木野会がこの言葉を刻んだ石碑の設置を提案し、昨年末より寄付を呼びかけた。賛同した卒業生らの寄付によって、『自由自治』の四文字が刻まれた石碑は悠々館横に立てられ、4月24日に開催された除幕式には、岡本夫人をはじめ、卒業生ら約60名が参加した。また、除幕式の後には岡本清一先生誕100年記念講演会が同志社大学で開催され、鶴見俊輔氏の講演等が行われた。

NEWS 地球環境大賞「優秀環境大学賞」を受賞

もともと環境保全に熱心な大学として高評価

京都精華大学が「第14回地球環境大賞(主催:フジサンケイグループ)」の優秀環境大学賞を受賞した。同賞は、日本最大ともいえる環境取組みに対する顕彰制度。地球環境保全に対する意識の向上を目的として平成4年に創設され、環境保全活動に熱心な企業、自治体、大学、市民グループなどを表彰してきた。本学はその大学部門において優秀環境大学賞を受賞。全学を対象に構築された環境マネジメントシステム(EMS)を基軸とした、人材育成と社会貢献が他に例を見ない取組みとして、高く評価された。

去る4月14日には、東京・元赤坂の明治記念館で授賞式が行われ、中尾ハジメ学長がさまざまな分野で環境保全活動をリードする全国の受賞者たちと肩を並べた。式場では受賞団体の取組みが映像を通じて紹介され、京都精華大学の主な活動内容として、全学を対象としたISO14001認証取得、人文学部環境社会学科のEMSを活用した教育事例などが提示された。

平成17年度京都府環境トップランナーに表彰

続いて、平成17年度の「京都府環境トップランナー」としても表彰された。京都府が環境意識の向上を目的に、地球温暖化防止や循環型社会の形成など、環境の保全や創造に向けた先駆的・先進的な取組みを行い、府民の環境配慮行動に多大な影響を与えた事業者又は団体を表彰するもので、こ

新自治会長あいさつ

学生自治会長に選出された林くんにあいさつの言葉を寄せてもらった精華は自由自治を謳い、かつ実践している日本でも数少ない大学です。初代学長の岡本清一氏の思想が37年を隔てた現在にまで綿々と受け継がれている事に、ある種の感慨を憶えます。昨今、自由自治が形骸化され、有名無実化している大学は少なくありません。組織が大きくなれば自然そうになってしまうのかも知れません。ですが、精華には取って代わる組織の中で自由自治を実践するという茨の道を進んで欲しいと思います。勿論、実践する際、我々は自由に対して責任を負う事が必要です。そして、学生だけでなく大学側が自由を失うことなく組織を運営してゆく事ができれば、京都精華大学は先駆者として新たなモデルを形成し、提示できるのではないのでしょうか。



学生自治会長 林 玄太(人文学部文化表現学科2年)



▼「第14回地球環境大賞」授賞式(於:明治記念館)

こでも本学の先進的な環境取組みが高く評価された。

人文学部 2006年度入試日程

AO入学制度	オープンゼミ方式	2005年9月4日(日)・9月23日(金・祝)・10月2日(日)・10月16日(日)・11月6日(日)・11月20日(日)・12月18日(日) 2006年1月15日(日)・2月5日(日)
	セミナー方式	8月20日(土)
	集中ゼミ方式	2005年8月17日(水)~19日(金)・8月28日(日)~30日(火)・9月17日(土)~19日(月・祝)・10月8日(土)~10日(月・祝)・11月4日(金)~6日(日)・12月24日(土)~26日(月) 2006年1月21日(土)~23日(月)・2月25日(土)~27日(月)
公募制推薦入試		2005年11月12日(土)・13日(日)
一般1期入試		2006年1月28日(土)・29日(日)・30日(月)
一般2期入試		2006年3月5日(日)・6日(月)

◆お問い合わせは、アドミッションズ・オフィスへ
0120-075150 adoffice@kyoto-seika.ac.jp

2004年度 退職教職員

以下の教職員の方々が2004年度で退職されました。

- ・松味 利郎 芸術学部デザイン学科 PCD分野
- ・王前 謙 芸術学部マンガ学科 カートゥーンマンガ分野
- ・橋本 初子 人文学部人文学科
- ・吉村 昭市 人文学部人文学科
- ・山田 富秋 人文学部社会メディア学科
- ・田中 貴子 人文学部文化表現学科
- ・西村 敏雄 教育推進センター 入学前教育部門
- ・鹿野 健一 事務局職員
- ・井関 礼子 事務局職員

2004年度から京都精華大学へ新任した教職員にあいさつの言葉を寄せていただきました。

新任教職員からのひとこと



大迫克全

芸術学部デザイン学科PCD分野
京都工芸繊維大学大学院修士課程修了。工業デザイン事務所を経て、個人事務所を設立。専門は工業デザイン(家具、衛生機器、家庭日用品等)及び内装設計(住宅、店舗、オフィス等)。

個人事務所を設立以来、短期大学と専門学校の非常勤講師を長く勤めて参りましたが、もう少し深くデザイン教育と学生に接してみたいと思う様になり、本年4月より本学に着任致しました。ただ技術だけを教えるのではなく、「デザインする心」を教授していきたいと思っています。



村田麻里子

人文学部社会メディア学科
ロンドン大学ゴールドスミスカレッジおよび東京大学大学院学際情報学府で修士号取得。東京大学大学院・情報学環メルプロジェクトメンバーとして様々なプロジェクトに企画・参画し、多方面で活躍。

着任して4ヶ月がたちました。あつというまだたつとも言えるし、なんとか乗り切ったという感じもします。研究テーマはメディアとしてのミュージアムのコミュニケーション・デザイン。メディア論的手法でミュージアム論を展開しています。学生の皆さんには、メディアと社会について多面的に捉える視点を学んでほしいと思います。



石川伸晃

教育推進センター日本語リテラシー部門
エディンバラ大学大学院哲学研究科修了。明治学院大学大学院国際学研究所博士後期課程修了(国際学博士)。哲学専攻。神奈川県立総合教育センター講師、和光大学非常勤講師などを経て、本学へ。

本学着任までは、他大学で哲学の講義を担当し、とつき難い学問を身近にする努力をしてきました。その経験を生かし、わかりやすい授業を心がけていきたいです。京都精華大学のよさである学生と教員との距離の近さを大切に、「読み・書き・考える」を共に楽しみ味わいあう時間をつくっていきたくと考えております。



マーティン・ハネセット

芸術学部マンガ学科カートゥーンマンガ分野
69年から新聞、雑誌へのマンガの投稿を始める。作品は世界的なマンガ週刊誌「パンチ」や「ラジオタイムス」などに掲載され、国内外で数々の賞を受賞。現在も「プライベートアイ」で連載を持つ。

若者にとって大学とは刺激的な旅への出発点です。その旅において彼らは人生を探求し、自分自身について学ぶでしょう。私にとっても、新任の教師として教えることは胸がワクワクすることです。私の専門は、カートゥーン(1コママンガ)です。私の芸術における経験が、学生たち自身の表現法や創造力の発展の手助けになることを期待しています。



森下育彦

教育推進センター日本語リテラシー部門
1955年長野県生まれ。和光大学人文学部文学科卒業。1990年より2005年まで、河合塾、駿台予備校、朝日カルチャーセンター等で「小論文」を担当。共著に「考えるための小論文」など。

あつというまの4ヶ月で、久しぶりに濃密な日々を送った感があります。4月の状況からすれば、学生の顔も見え出し、右も左もわかるようにはなりましたが、いまだ流溪館と本館と清風館と食堂の間のごく狭い空間しか知りません。もう少し余裕ができれば、学内探索をしようと思っています。



野口勝三

教育推進センター日本語リテラシー部門
総合研究大学院大学生命科学研究科博士後期課程修了。大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員研究員を経て、本学へ。編著に「クィア・スタディーズ96」「問97」など。

3月に赴任してからあわただしく日々を過ごすうちに、気が付いたら前期が終わろうとしています。これまで、学生の反応をカリキュラムや授業内容にフィードバックしながら授業に取り組んできましたが、日本語リテラシーという未知の分野の魅力と難しさを痛感しております。今後も読み、書き、考えることの面白さを伝えていければと思っています。



井上雅人

人文学部文化表現学科
1974年東京生まれ。文化服装学院卒業。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学。京都造形芸術大学専任講師を経て本学に。著作に「洋服と日本人」。共編に「デザインの瞬間」。共著に「モードと身体」など多数。

近代において人と物がいかように関係を結んできたのかをテーマに、デザインやファッションを歴史社会的に研究しています。近代は物が溢れ出すとともに、自分で作らなくなった時代で、それによってもたらされる弊害は、今もって解決していません。歴史を現在へとアクチュアルに展開していく道を学生と模索できればと思っています。



篠原ユキオ

芸術学部マンガ学科カートゥーンマンガ分野
東大阪市生まれ。京都教育大学美術科在学中に産経新聞にて1コマ漫画家としてデビュー。以後、新聞、雑誌を中心に連載執筆。(社)日本漫画家協会の関西支部長として多くの企画にも関わる。

大学時代から35年間、1コマにこだわって漫画を描き続けてきました。「今に1コマ漫画の時代がくる」と信じて、思いを同じにする仲間たちと関西を拠点に創作活動を続けてきたのですが、この精華大にお世話になる事は「想定外」ではあったものの、春からの学生たちとの関わりの中で、どこか運命的なものも感じ初めているこの頃です。



石田あゆむ

教育推進センター入学前教育部門
京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位認定退学。専門は社会学。京都大学博士(文学)。龍谷大学、神戸女学院大学などの非常勤講師を経て、本学へ。

この4月に京都精華大学にやってきました。私は叡山電鉄で通勤しているのですが、車窓に映る四季の変化を楽しんでいます。6月には岩倉で蛍狩りができることも知りました。もちろん、次第に大学生らしくなっていく一回生の表情の変化も興味深く観察しています。これからの四季の風景も大学の様子とともに見ていきたいと思っています。

二〇〇四年度決算及び二〇〇五年度予算について

二〇〇四年度決算について

〇四年度の帰属収入は、約五九億円でした。このうち学生納付金は八五%を占めています。この中から、講義棟「清風館」の新築工事、四条烏丸のCOCON烏丸ビル内の学外拠点「study hall」開設のための内装工事、烏丸竹屋町の「京都精華大学交流センター」開設のための改修工事、その他学内施設の諸改修工事等で約六億六千万円の施設関係支出を行いました。このうち、清風館の建設資金には、二億三千四百万円の融資を受けました。また、清風館・study hall・交流センターの附帯備品の購入(教育後援会からの寄附事業)等で約一億五百万円の設備関係支出を行いました。これらを含めて、大学の基本財産取得に関わる基本金組入額は約七億三千万円でした。

消費支出(人件費・経費等)は約五三億五千万円となりました。この中には、経常的な支出の他に、有価証券の売却による四億一百万円余りの差損を含んでいます。(この件につきましては、次項において説明をさせていただきます。)

〇四年度の消費収支は約一億五千万円の支出超過となりました。この結果、〇五年度への繰越消費支出超過額はおよそ一億六千万円となりました。資産の総額の増加と借入金金の減少の結果、自己資金率は〇・四パーセント増加し、八一・一パーセントとなりました。

二〇〇五年度予算について

二〇〇五年度は、デザイン学部とマンガ学部の開設のため、新実習棟の建築工事に着手し

ます。これに伴う基本金組入額の増加等により、単年度では九億四千万円の支出超過の予算となっています。受託事業等については、継続して積極的に導入し、増収と教育研究活動の活性化を図ります。二学部設置のための施設設備整備や老朽化建物の建替え等により、今後の収支状況は支出超過が続きますが、二学部が完成年次となる二〇〇九年度以降には、単年度収支は黒字回復する計画です。

二〇〇四年度の資産運用における損失について

一、京都精華大学の資産運用の状況

京都精華大学は、これまでその運用果実を教育研究活動に活用するため、債券を中心とした資産運用に積極的に取り組んできました。九四・〇三年度の十年間を見ても、平均三四億円余りの預貯金と一八億円余りの有価証券を保有し、単年度運用益の最高は九六年度の一億一千百万円、最低は〇〇年度の七九百万円の損失という、年度による変動を含みつつ、十年間の合計で四億九千二百万円余りの運用益を上げてきました。しかしながら、〇四年度は、アルセンチン国債の売却により、これまでになく大きな損失が発生しました。〇四年度の単年度資産運用結果は、三億六千四百万円余りの損失です。

資金の運用結果の評価は単年度で判断するのではなく、長期的に評価すべきであると考えていますが、今回の金額は過去の運用益の大部分を一挙に放出したと言える金額であり、大学は関係各位に説明責任を果たさなければならぬと認識しています。

二、運用損失発生経緯

(一)アルセンチン国債購入
本学は九四年度に購入して以来、継続的に発行時期の異なるアルセンチン国債を購入・保有し、利金と元本を受け取って来ましたが、今回債務不履行に陥ったものは、九九年度から〇〇年度にかけて購入した、取得金額合計五億九千二百万円余り(額面七億八千万円)の同債券です。利率は三・五%で、償還期日は〇九年八月です。

(二)アルセンチン国債の債務不履行

〇一年十二月にアルセンチン政府は債務支払停止を宣言しました。この結果、本学は〇一年八月に利金を受け取ったのを最後に、以後の利払いを受けていません。さらに〇五年一月になって同政府は、元本をおよそ三割に削減し、最終償還期日を二十四年間延長するという債務交換条件を一方的に出し、これに対応しない債権者には、以後債務交渉はないという強硬姿勢を打出しました。

(三)アルセンチン国債の売却

本学は、この債務交換に際することをせず、また元々の債権を主張し続けて問題を先送りすることも選ばず、同債券を売却することを選択し、〇五年二月に全額を売却しました。売却額は、一億九千九百万円余りでした。これにより、四億百万円余りの売却損が生じ、この金額は〇四年度消費収支計算書の「資産処分差額」に計上しました。これまでにアルセンチン国債による運用で得た利金と売却益が一億六千六百万円余りありましたが、アルセンチン国債での運用による損失純額は二億三千五百万円余りになります。

前述の通り、今回の損失の結果、これまでの運用益の大部分を放出した形になりましたが、運用原資である学納金や補助金にまで欠損が及ぶには至っていません。また、現在の中長期財政計画の中で、すでにこの損失は〇九年度に発生するものとして見込んでいたが、損失を見込みより早期に計上した結果においても、中長期財政計画に影響を及ぼすことなく進行しています。

三、本件の責任と今後の損失防止策

今回のアルセンチン国債の購入から売却に至る経過において、規程は遵守され違反はありませんでした。しかしながら、現行規程もとの資金運用において多額の損失が計上されたことも事実です。理事会は、規程の整備が適切に行われてこなかったことが多額の損失発生の主因と判断するとともに、本件によって教職員、学園関係者の方々にご心配をお掛けしたことに対するお詫びの気持ちも含め、理事長と専務理事(総務担当専務理事を兼務)の役員報酬減額処置を実施しました。資金運用に関する規程は今後早急に整備します。また、損失発生が予測された〇一年度以降、保有有価証券を安全性の高い銘柄に替える措置を実施してきていますが、同時にそのことにより運用収入も減少しています。今後、安全性を確保しつつ可能な限りの運用益を確保し、大学の教育研究活動に有効に利用することを目指していかねばなりません。そのため、資金運用審議会を新設し、学内担当者に加えて学外有識者の意見、情報を反映できる仕組みを作り、ここを中心に運用を進めていきたいと考えています。

2004(平成16)年度資金収支計算書
2004(平成16)年4月1日から
2005(平成17)年3月31日まで (単位:千円)

収入の部	
科	目 金 額
学生納付金収入	5,062,806
手数料収入	122,601
寄付金収入	29,300
補助金収入	486,604
資産運用収入	26,445
資産売却収入	282,399
事業収入	69,607
雑収入	102,793
借入金収入	234,000
前受金収入	1,400,325
その他の収入	276,668
資金収入調整勘定	△ 1,525,919
前年度繰越支払資金	6,116,232
収入の部合計	12,683,861
支出の部	
科	目 金 額
人件費支出	2,538,186
教育研究経費支出	1,276,939
管理経費支出	402,278
借入金等利息支出	82,266
借入金等返済支出	270,576
施設関係支出	663,696
設備関係支出	105,865
資産運用支出	297,751
その他の支出	184,892
資金支出調整勘定	△ 71,768
次年度繰越支払資金	6,933,180
支出の部合計	12,683,861

2004(平成16)年度消費収支計算書
2004(平成16)年4月1日から
2005(平成17)年3月31日まで (単位:千円)

消費収入の部	
科	目 金 額
学生納付金	5,062,806
手数料	122,601
寄付金	38,353
補助金	486,604
資産運用収入	26,445
資産売却差額	25,245
事業収入	69,607
雑収入	102,793
帰属収入合計	5,934,454
基本金組入額合計	△ 731,650
消費収入の部合計	5,202,804
消費支出の部	
科	目 金 額
人件費	2,541,514
教育研究経費	1,824,465
管理経費	463,718
借入金等利息	82,266
資産処分差額	409,808
徴収不能額	32,101
消費支出の部合計	5,353,872
当年度消費支出超過額	151,068
前年度繰越消費支出超過額	1,009,180
翌年度繰越消費支出超過額	1,160,248

2005(平成17)年度資金収支予算書
2005(平成17)年4月1日から
2006(平成18)年3月31日まで (単位:千円)

収入の部	
科	目 金 額
学生納付金収入	5,043,523
手数料収入	119,265
寄付金収入	23,000
補助金収入	448,750
資産運用収入	26,300
資産売却収入	1,000,000
事業収入	112,850
雑収入	97,630
借入金収入	630,000
前受金収入	1,385,000
その他の収入	290,156
資金収入調整勘定	△ 1,599,325
前年度繰越支払資金	6,933,180
収入の部合計	14,510,329
支出の部	
科	目 金 額
人件費支出	2,773,010
教育研究経費支出	1,262,182
管理経費支出	574,826
借入金等利息支出	76,700
借入金等返済支出	262,930
施設関係支出	1,459,500
設備関係支出	373,000
資産運用支出	1,000,000
その他の支出	172,216
予備費	100,000
資金支出調整勘定	△ 73,727
次年度繰越支払資金	6,529,692
支出の部合計	14,510,329

2005(平成17)年度消費収支予算書
2005(平成17)年4月1日から
2006(平成18)年3月31日まで (単位:千円)

消費収入の部	
科	目 金 額
学生納付金	5,043,523
手数料	119,265
寄付金	25,000
補助金	448,750
資産運用収入	26,300
資産売却差額	0
事業収入	112,850
雑収入	97,630
帰属収入合計	5,873,318
基本金組入額合計	△ 1,316,000
消費収入の部合計	4,557,318
消費支出の部	
科	目 金 額
人件費	2,773,010
教育研究経費	1,830,182
管理経費	642,826
借入金等利息	76,700
資産処分差額	42,100
徴収不能額	30,000
予備費	100,000
消費支出の部合計	5,494,818
当年度消費支出超過額	937,500
前年度繰越消費支出超過額	1,160,248
翌年度繰越消費支出超過額	2,097,748

貸借対照表

2005(平成17)年3月31日現在

(単位:千円)

資 産 の 部				負 債 の 部					
科	目	本年度末	前年度末	増減	科	目	本年度末	前年度末	増減
固定資産		17,360,693	17,539,474	△ 178,781	固定負債		2,787,412	2,818,111	△ 30,699
有形固定資産		15,819,577	15,663,381	156,196	長期借入金		2,197,440	2,231,467	△ 34,027
土地		4,066,541	4,066,541	0	退職給与引当金		589,972	586,644	3,328
建物		9,241,119	9,001,730	239,389	流動負債		1,907,320	1,852,249	55,071
構築物		610,591	571,420	39,171	短期借入金		262,930	265,479	△ 2,549
教育研究用機器備品		888,175	1,036,391	△ 148,216	未払金		87,814	83,886	3,928
その他の機器備品		62,860	69,317	△ 6,457	前受金		1,400,325	1,344,645	55,680
図書		943,362	917,880	25,482	預り金		158,251	158,239	△ 1,988
車輛		6,929	102	6,827	負債の部合計		4,694,732	4,670,360	24,372
その他の固定資産		1,541,116	1,876,093	△ 334,977	基本 金 の 部				
電話加入権		3,566	3,566	0	科	目	本年度末	前年度末	増減
有価証券		536,306	897,411	△ 361,105	第1号基本金		20,819,375	20,087,724	731,651
長期貸付金		391,079	370,666	20,413	第2号基本金		0	0	0
退職給与引当特定資産		448,950	448,950	0	第3号基本金		150,000	150,000	0
第3号基本金引当資産		150,000	150,000	0	第4号基本金		343,000	329,000	14,000
保証金		11,215	5,500	5,715	基本金の部合計		21,312,375	20,580,724	731,651
流動資産		7,486,166	6,702,430	783,736	消 費 収 支 差 額 の 部				
現金預金		6,933,180	6,116,232	816,948	科	目	本年度末	前年度末	増減
未収入金		199,614	248,579	△ 48,965	翌年度繰越消費支出超過額		1,160,248	1,009,180	151,068
貯蔵品		5,136	0	5,136	消費収支差額の部合計		△ 1,160,248	△ 1,009,180	△ 151,068
短期貸付金		4,391	1,690	2,701	科	目	本年度末	前年度末	増減
有価証券		317,575	317,364	211	負債の部、基本金の部及び				
立替金		17,804	4,753	13,051	消費収支差額の部合計		24,846,859	24,241,904	604,955
前払金		3,727	2,390	1,337					
仮払金		4,739	11,422	△ 6,683					
資産の部合計		24,846,859	24,241,904	604,955					